

No.73

2025 年
11月1日

住みなれたまちで

みさと健和病院祭 キッズけあ

10月19日(日)、みさと健和病院・みさと健和クリニックによる「みさと健和病院祭」が鷹野文化センターで開催されました。私たちケアワーカー魅力発信委員会では、福祉協同サービス職員と一緒に地域の子どもたちを対象に介護のお仕事体験「キッズけあ」を実施しました。

今回は、車椅子を使ったスロープの上り下り体験や、床走行リフト・電動車椅子の試乗など、楽しみながら学べる体験を用意しました。未就学児から小学生の子どもたちを中心に、約50名が参加し、会場は笑顔と活気にあふれていました。

体験の記念にチェキで撮影した写真と参加証、ノベルティーをプレゼント。笑顔で持ち帰る子どもたちの姿に、スタッフもあたたかい気持ちになりました。

今回の体験を通して、介護の仕事に少しでも興味を持ってもらい、子どもたちが介護職員の明るく元気に働く姿を身近に感じてくれたら嬉しいです。将来、ここから介護の道に進む子どもたちが誕生することを期待しています。

ケアワーカー魅力発信委員会(CMH)



特別養護老人ホーム 葛飾やすらぎの郷 夏祭り

ワッショイワッショイ！！各フロアで8/25.26に行われた「やすらぎの夏祭り」は職員の手作りお神輿を利用者さんに担いでもらい、威勢の良い掛け声と笑い声で盛り上がりました。掛け声に合わせてリズムカルにお神輿を上下に揺らす利用者様の姿に、見守る職員の顔も自然とほころびます。

「昔はよく子どもとお祭りに行ったね」と昔を懐かしむ利用者様の言葉に、フロアは懐かしさと暖かさで包まれました。

スイカ割りや、毎年恒例の職員のロックソーラン節(この日の為に猛練習をしました)、射的や輪投げも行い、最後は見事に真っ二つに割れたスイカをみんなで分け合って食べました。

お神輿やスイカ割りを通じて世代を超えた交流が生まれ、心に残るひと時を過ごすことができました。

【介護支援専門員 長谷川 浩司】





夏のとおき瞬間!

第一回 すこやか 夏フォトコンテスト



第 1 位 デイサービスセンターかねがふち 「残念!」



第一回「すこやか 夏フォトコンテスト」を実施しました。

今回のフォトコンテストは初めての試みでしたが、法人内各事業所から夏の行事や日常のひとコマを切り取った写真が多数寄せられました。

笑顔あふれる瞬間や、地域とともに過ごす温かな時間が伝わる作品が並び、法人全体の活気とつながりを感じられるコンテストとなりました。皆さまご協力ありがとうございました。

第 2 位 グループホームすこやかの家業平 「夏祭り、アツアツおでんとスカイツリー」



第 3 位 デイサービスセンターかねがふち 「友達と力を合わせて!」



第 4 位 特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
「105 歳のお神樂」

第 5 位 デイサービスセンターすこやか
「えい! やー!!」





保育事業部 研修委員会は、①子どもを主体とした保育実践の気づきを共有し発信する、②保育の質の向上のために講師の検討を行い、研修を企画する、③人材育成への理解と周知を目的として活動しています。

保育事業部には、保育園が3園、学童保育クラブが5カ所あり、保育士、学童支援員、栄養士、看護師、事務職員など多様な職種の職員がいます。働き方もそれぞれ違いますが、子どもの最善の利益を願い、子どもの主体性を大切に日々奮闘し保育を営んでいます。



合同研修は、子どもに向かう姿勢、子どもへのまなざしを学び合う期会であり、すこやかの保育者としての同僚性を確認し合う大切な期会と捉えています。

今年度は、午前はワークショップで職員自らが講師役を務め学び合いました。午後は昨年度に引き続き、エピソード記録の共有から保育実践の気づきを共有しました。目に見えない子どもの心の動きを共有し、それぞれの施設の環境、特性、職員の個性や固有性「違うところはあるけれども、根っこ(基本)は一緒だね」というところを確認し合えたのではないかと思います。

【保育事業部長 松岡 愛子】

“所長のこころ” ♡

ヘルパーステーションきずな 影山 桂子



「ヘルパーステーションきずな」は、千葉県流山市に東葛病院の職員と友の会で2000年に立ち上げ、NPOでスタートした事業所です。直行直帰の登録ヘルパーを中心に訪問介護員32名事務員1名、介護保険での介護タクシー6名、総勢39名の大所帯です。開所当時の職員も多く、最高齢は80歳、なんと平均年齢67歳です。かなりの高齢化事業所ではありますが、個性豊かで、そして心豊かな職員ばかりです。それぞれの個性を大事に生かし、協力し合っている事業所です。

介護報酬引き下げや人材不足、職員の超高齢化等々問題は山積みです。精神論だけでは事業継続が難しい、その中にある職員には技術だけでなく、ひとりひとりに向き合う温かい心と誠実さを大切にして欲しいと思っています。

きずなの所長として15年携わってきた私の誇りと財産は、支えあった職員と関わった利用者をはじめとする全ての人です。人を大切に、「きずなの職員でよかった」「きずなのヘルパーさんが来てくれて良かった」と思ってもらえ、地域で必要とされる事業所でありたいと強く思っています。

【所長 影山 桂子】

